

学びのR

No. 27 (令和2年7月)
埼玉県教育局南部教育事務所
<https://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/g2201/index.html>

「R」は「reform(改革)」の頭文字です

*** 「指導と評価の一体化」で授業改善① *** ～「小学校 外国語科・外国語活動」編～

*今回は、「指導と評価の一体化」の視点から、外国語科の目標から単元の目標・毎時間の目標、そして具体的な指導場面からの評価の在り方について考えます。

「外国語活動・外国語」の目標は何？

小中高のつながりを意識することで
が求められています。



埼玉県マスコット「コバトン」

外国語活動・外国語の目標

外国語活動	小・外国語	中・外国語	高・外国語
<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すこと、</p> <p>言語活動を通して、</p> <p>コミュニケーションを図る素地となる</p> <p>資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p>	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと、</p> <p>言語活動を通して、</p> <p>コミュニケーションを図る基礎となる</p> <p>資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p>	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと、</p> <p>言語活動を通して、</p> <p>簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る</p> <p>資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p>	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと、</p> <p>言語活動及びこれらと結び付けた統合した言語活動を通して、</p> <p>情報や考えなどを的確に理解したり的確に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る</p> <p>資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p>

※学習の段階で共通する部分を「赤字・ゴシック体・網掛け」、
発展していく部分を「黒字・ゴシック体・下線」で示しました。

確認 その① 【外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方】とは？

外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、**社会や世界、他者との関わり**に着目して捉え、コミュニケーションを行う**目的や場面、状況等**に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること

「社会・世界・他者との関わり(相手意識)」と「目的・場面・状況」がキーワードだね！



埼玉県マスコット「さいたまっちゃん」

「単元を通して、自分の考えや気持ちを伝え合う活動を行っていく」ことがポイントだね！



確認 その② 【言語活動】とは？

「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」活動。発音練習や歌、英語の文字を機械的に書く活動は、「言語活動」ではなく言語活動を充実させるための「練習」です。練習は、言語活動を成立させるために重要なものですが、「言語活動をとおして～資質・能力を育成する」といった外国語科の目標に照らし合わせると、単元を通じた指導の中で、練習だけで終わることなく、言語活動につなげ、その**取組状況から言語活動を行っている様子**を評価していく必要があります。

確認 その③ 【育成を目指す資質・能力】とは？

全ての教科等の目標及び内容は、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理されています。

外国語科・外国語活動における観点別学習状況の評価については、「内容のまとめり（五つの領域 ※外国語活動は三つの領域）」ごとの評価規準を作成し、「三つの観点」で総括的評価を行います。

内容のまとめり（五つの領域）

聞くこと

読むこと

話すこと [やり取り]

話すこと [発表]

書くこと

※「読むこと」「書くこと」は外国語活動では扱いません。

知識・技能

知 理解している
技 身に付けている

三つの観点

評価規準の基本的な形

主体的に学習に取り組む態度
～しようとしている

思考・判断・表現

聞 概要をとらえている、読 意味が分かっている
話[や] 伝え合っている、話[発] 自分の気持ちを話している
書 書いている、書き写している

目標と指導と評価の場面をイメージしてみよう！

ここからは、**小学校外国語科**における「指導と評価の一体化」について考えていくよ！



県 p.227～231

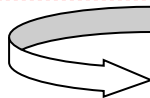
例) 「We Can! 2 Unit 5 夏休みの思い出」の単元計画における目標及び評価の観点

単元の目標

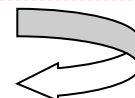
- 夏休みに行った場所や食べ物、楽しんだこと、感想などを言ったり聞いたりすることができる。
- 過去の表現を用いて、夏休みに行った場所や食べ物、楽しんだこと、感想などを伝え合う。また、夏休みの思い出について簡単な語句や基本的な表現で書かれた英語を推測しながら読んだり、例を参考に自分の夏休みの思い出について話したことを、語順を意識しながら書いたりする。
- 他者に配慮しながら、夏休みの思い出について伝え合おうとする。

〈知識及び技能〉

〈思考力・判断力・表現力等〉
〈学びに向かう力、人間性等〉

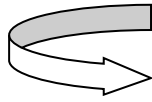


内容のまとめりごとの評価規準を作成します。

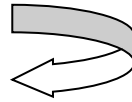


	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと (聞)	<技能> ①夏休みの思い出について話される短い英文の内容を聞き取る技能を身に付けている。	①相手のことをよく知るために、夏休みの思い出について、短い話の概要を捉えている。	①相手のことをよく知るために、夏休みの思い出について、短い話の概要を捉えようとしている。
読むこと (読)		①相手のことをよく知るために、夏休みの思い出やに感想について書かれた内容の概要を捉えている。	
話すこと [やり取り] (や)	<知識> ①動名詞や過去形のうち、活用頻度の高い基本的なものについて理解している。 <技能> ②夏休みの思い出について、I went to ~や It was ~を用いて、行った場所や食べたもの、その感想などを伝え合う技能を身に付けている。	①相手のことを知り、自分のことを伝えるために、夏休みの思い出や感想について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちを伝え合っている。	①相手のことを知り、自分のことを伝えるために、夏休みの思い出や感想について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちを伝え合おうとしている。
書くこと (書)	<知識> ①語と語の間隔や活字体の大文字・小文字の使い分け、終止符や疑問符、コンマなどの基本的な符号について理解している。 <技能> ②夏休みの思い出について、語と語の区切りに注意しながら書いたり、大文字・小文字の活字体を書いたりする技能を身に付けている。		

※本単元では、話すこと「発表」の指導及び評価は行いません。



単元の計画を作成します。

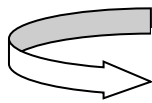


評価方法を考えておくことが重要です。 評価時期や場面、評価方法を精査し、記録に残す 単元まとめの中で適切に評価を実施する ためには、観点別学習状況を記録に残す	時	目標	知・技	思・判・表	態
	1	夏休みに行った場所を言ったり聞いたりする。	記録に残す評価は行わない。 ^{*1}		
	2	夏休みの思い出についての話を聞き、行った場所や感想などが分かる。また、その感想を伝え合う。			
	3	過去の表現の仕方が分かり、夏休みに行った場所とその感想を伝え合う。	や ^②		
	4	夏休みに行った場所と食べた物について、その感想を言ったり聞いたりする。	や ^{①*2}		
	5	夏休みに楽しんだこととその感想を言ったり聞いたりする。	書 ^①	聞 ^①	聞 ^①
	6	夏休みの思い出についての話を聞き、行った場所、楽しんだこと、食べた物、感想を伝え合う。	聞 ^①	や ^①	や ^①
	7	夏休みの思い出について書かれた文を推測して読んだり、他者に配慮しながら夏休みの思い出について伝え合おうとしたりする。		読 ^①	
8	自分の夏休みについて話したことを、今まで書き写してきた文を参考に、語順を意識しながら書く。	書 ^{②*3}			

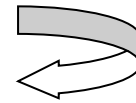
^{*1} 単元のはじめは、「目標」に向けて指導を行います。また、知識・技能の習得のための「練習時間」となることが多くなることも考えられます。その場合には、「記録に残す評価」は行わないこともあります。ただし、児童の学習状況を確認するための、「学習改善を促す評価」「教師の指導に生かす評価」は行います。

^{*2} 「やり取り」の具体的な評価例
 やりとりの中で、「行った場所」「食べた物」「感想」の3点を述べている。
 →「A」

^{*3} 「書くこと」の具体的な評価例
 十分慣れ親しんだ表現を、語順などを意識して、「書き写す」ことができている。
 →「A」



単元における観点ごとの評価の総括表を作ります。



観点	知識・技能						思考・判断・表現				主体的に学習に取り組む態度		
	や	や	書	聞	書		聞	や	読		聞	や	
評価場面	第3時 Let's Talk	第4時 Let's Play	第5時 Let's R&W	第6時 Let's L	第8時 Let's R&W		第5時 Let's W&T	第6時 Let's Talk	第7時 Let's R&W		第5時 Let's W&T	第6時 Let's Talk	
評価方法	行動観察	行動観察	WS	行動観察	行動・WS		行動・WS	行動観察	行動観察		行動・WS	行動観察	
評価の内容	夏休みの思い出について、I went to ~. や It was ~. を用いて、言った場所やその感想を伝える身に付けている。	動名詞や過去形のうち、活用度の高いものについて理解している。	語と語の間隔や活字の大きさ、文字の使い分け、終止符や疑問符、コンマなどの基本的な符号について理解している。	夏休みの思い出について話される簡単な表現を取り身に付けている。	夏休みの思い出について、語と語の区切りや注意書きがたり、大文字、小文字を書いたりする身に付けている。	単元における評価	相手のことをよく知るとともに、夏休みの思い出について、短い話を捉えている。	相手のことを知り、自分の伝えたいことを伝えるために、夏休みの思い出や感想について、簡単な表現や考えや気持ちを込めて伝える。	相手のことをよく知るとともに、夏休みの思い出や感想について、書かれた内容の概要を捉えている。	単元における評価	相手のことをよく知るとともに、夏休みの思い出について、短い話の概要を捉えている。	相手のことを知り、自分の伝えたいことを伝えるために、夏休みの思い出や感想について、簡単な表現や考えや気持ちを込めて伝える。	単元における評価
児童1	B	A	A	B	B	B	C	B	B	B	B	B	B
児童2	B	B	A	A	A	A	B	A	A	A	A	A	A

※学期末における観点ごとの総括を行う際は、観点別評価規準の総括結果から、

「AAAは評定3」「BBBは評定2」「CCCは評定1」と考えられることをもとにして、

他の場合（AAB、ABB、BBC、BCC）については、学校ごとに基準を設け、あらかじめ確認しておいてください。

※ここで示した、「内容ごとのまとりの評価規準」「単元の計画」「評価の総括表」は、参考例です。

※次のページからは、指導場面を変えて、具体的な活動例から、指導と評価の一体化について考えます。

「話すこと」[やり取り]を指導しよう！

十分慣れ親しんだ表現を用いた総括的な活動が「やり取り」となるため、単元の後半なんだね。

「話すこと」[やり取り]の評価場面の指導と評価

国研 p.54~57

例) 5年 Unit 2—Lesson 7 単元名 When is your birthday? 行事・誕生日 7/7 時間



目標 自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合うことができる。

コミュニケーションの目的・場面・状況を明確にした目標となっているね。



準備 児童用テキスト、バースデーカード（児童が完成させたもの）、デジタル教材、振り返りシート

本時のねらい 好きなもの欲しいものについて伝え合おう。

具体物やICT等を効果的に活用しているね。



身近なことから興味・関心を喚起し、既習事項を活用した「言語活動」となっているね。

評価規準と評価の方法

- ◎自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合っている。【思考・判断・表現】<行動観察>
- ◎自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合おうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】<行動観察>

進め方

- 1 前時に完成したバースデーカードを集め、あらかじめ次のように分けておく。
- 2 児童を、カードを届ける側①ともらう側②の2つのグループに分ける。
- 3 誕生日カードを、①の児童がもらうカード（①カード）と、②の児童がもらうカード（②カード）の2つに分ける。
- 4 ①の児童に②カード、②の児童に①カードを無作為に配る。その際、作った本人に作ったカードが渡らないようにする。
- 5 まず、①の児童が②カードを持って、②の児童の誰かとペアになってやり取りをしながら、自分の持つ②カードの誕生日の人を探す。探し当てられたら、そのカードを開いてToの名前と一致しているかを確認、カードの内側に様々描かれている好きなものや欲しいものについて尋ねたり、答えたりしてやり取りをしてから、カードを渡す。
- 6 ①の児童全員がカードを配り終えたら、役割を交替して同様にやり取りをする。
※カードの相手が見つかったペアが会話を始めることで、次第に相手がまだ見つからない人数が減っていく。そのため相手を探しやすくなる。

Seeing is Believing!
「百聞は一見に如かず。」

ALTや児童とのやり取り
(Small Talk など)から、類推させるとともに、目指すべき姿をイメージします。



見つからなかった例

S1: Hello! S2: Hello!
S1: When is your birthday? S2: My birthday is February 15th.
S1: I'm sorry. I don't have your card. Goodbye. S2: Goodbye.

見つかった例

S1: Hello! S2: Hello!
S1: When is your birthday? S2: My birthday is March 14th.
S1: March 14th. Oh, this is your birthday card. S2: Thank you very much.
(カードはまだ渡さず、カードに描かれているものについてS1がS2に尋ねる)

見つかった後の続け方

S1: Do you like blue and white? S2: Yes, I do. I like blue very much.
What color do you like?
S1: I like yellow. Do you like table tennis? S2: Yes, I do. I like table tennis.
S1: Me, too! I like table tennis. It's fun.
Do you want a new T-shirt for your birthday?
S2: Yes. I want a new T-shirt!
S1: This is for you. Here you are. Happy birthday!
(S1がS2にバースデーカードを渡す) S2: Thank you very much.

事前の手立て

When is your birthday?
 What do you want for your birthday?
 Do you like ~?
 Your birthday is ~.
 You want / like ~.

本単元では？

誕生日
 好きなもの
 欲しいもの

尋ね方・答え方
 語句や表現



相乗効果

日頃の活動では？

中学年 外国語活動
 高学年 これまでの単元

教師によるモデル
 日頃からの活用

十分に慣れ親しむことで、定着。
 自信をもって参加ができる。

相手意識を持って、相手の発言を
 理解しながら参加ができる。

主体的な 言語活動

自分の言葉を再構築しながら参
 加ができる。

モデルがあることにより、
 安心して参加ができる。

実際の「やり取り」の例を見てみよう！

1回でなく、複数の活動場面による児童の状況から、「粘り強い取組を行おうとしている側面」や「自らの学習を調整しようとする側面」も見取ろう！



児童1と児童2のやり取り

児童1: Hello! 児童2: Hello.
 児童1: …、なんて言うんだったかな。
 (指導者に教えてもらって)
When ... is birthday, your birthday?
 児童2: My birthday is July 21th.
 児童1: OK! えーっと、
Do you like ... swim?
 児童2: Yes, I like swimming.
 (カードに記された水泳、猫、青い机のイラストを見て)
 児童1: OK, swimming.
 えーっと、Do you like cat?
 児童2: Yes, I do. Do you like cats?
 児童1: No.
 児童2: What animal do you like?
 児童1: …… 児童2: Do you like dog?
 児童1: Yes. Color, blue.
Do you like blue?
 児童2: Yes, I like blue.
 児童1: えっと、present?
Birthday present?
 児童2: I want a blue desk.
 児童1: OK. Blue desk! Birthday card.
 Here you are.
 児童2: Oh, thank you.
 児童1: OK.

児童2と児童3のやり取り

児童2: Hello! 児童3: Hello!
 児童2: When is your birthday?
 児童3: My birthday is February 2nd.
 児童2: (カードに記された野球のボールとバット、黄色、犬のイラストを見て) Baseball, do you like baseball?
 児童3: Yes, I do. I like baseball.
 児童2: Me, too.
 児童3: Nice. I like Ohtani Shohei.
Do you like Ohtani Shohei?
 児童2: Yes, I do.
 児童3: Ohtani Shohei is great.
 児童2: Yes, yes. Do you like yellow?
 児童3: Yes, I do. How about you?
 児童2: No, I don't.
 児童3: What color do you like?
 児童2: I like blue. Do you like blue?
 児童3: Yes, I like blue, too.
 児童2: Birthday present, what do you want?
 児童3: Dog! I want dog.
 児童2: Oh, do you like dog?
 児童3: Yes, yes. I like dog.
Do you like dog?
 児童2: No. I like cats.
 児童3: OK. Good.
 児童2: Birthday card, here you are.
 児童3: Thank you.
 児童2: You're welcome.

活動が終わったら、本時のねらいに照らして具体的な場面から児童を称賛します。先生からの「直接の評価」が児童の「自己肯定感」を高めます！



児童3と児童1のやり取り

児童3: Hello! 児童1: Hello!
 児童3: When is your birthday?
 児童1: December ... 10th.
 児童3: Oh, your card.
 (カードに記されたチョコレート、青い色の鞆、バレーボールのイラストを見て)
Do you like chocolate?
 児童1: Yes, I do. Chocolate, good!
 児童3: Me, too. I like chocolate.
 児童1: Me, too. Me, too.
 児童3: Do you like blue?
 児童1: Yes. Blue! You?
 児童3: I like yellow.
 児童1: ああ、Yellow.
 児童3: Yes. I like yellow.
Do you like volleyball?
 児童1: Yes, volleyball, good.
 児童3: I like baseball.
Do you like baseball?
 児童1: Baseball? No.
 児童3: OK. I like Ohtani Shohei.
 児童1: Oh, Ohtani. OK.
 児童3: Birthday present, what do you want?
 児童1: Birthday present, ... bag.
Bag.
 児童3: Bag. What color?
 児童1: Color?
 児童3: Red, yellow, blue:...
あつ、Blue bag?
 児童1: Yes, blue bag.
 児童3: OK. Birthday card, here you are.
 児童1: OK, thank you.
 児童3: You're welcome.

※「やり取り」の中の下線は、記録に残す評価のポイントとなる部分です。次のページの「3人の児童の様子」とリンクしています。

実際の「やり取り」から、「記録に残す評価」をしてみよう！

単元の目標を確認する

バックワード・デザイン（ゴールからの逆算）で指導と評価の一体化を図ろう！

本時の評価規準を確認する

自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合うことができる。

◎自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合っている。【思考・判断・表現】<行動観察>
◎自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合おうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】<行動観察>

本時の評価規準を通して3人の児童の様子を振り返ってみよう！

- ◎ 十分満足できる
- 概ね満足できる
- ▲ 努力を要する



児童1

【主体的に学習に取り組む態度】
○自分のことを伝えようとしていたり、相手のことを知ろうとしていたりしている
○粘り強く会話を続けようとしている

【思考・判断・表現】
▲相手の発言に繰り返すだけのことが多い
▲既習の語句や表現を活用できていない
▲相手に質問できていない

【主体的に学習に取り組む態度】
○自分のことを伝えようとしていたり、相手のことを知ろうとしていたりしている
○粘り強く会話を続けようとしている

【思考・判断・表現】
○既習語句や表現を使って、尋ねたり、答えたりできている



【知識・技能】（本時の評価規準には、設定していない）
○やり取りに必要な技能を身に付けている ※下記の総括表に反映

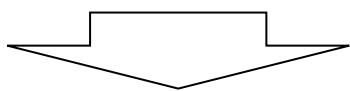


児童3

【主体的に学習に取り組む態度】
◎自分のことを伝えようとしていたり、相手のことをよく知ろうとしていたりしている
○粘り強く会話を続けようとしている
◎相手の発言に対して、適切に応じようとしている

【思考・判断・表現】
◎モデルだけに頼らず、野球のことなどの自分の好きなことを相手にわかりやすく伝えている
◎相手が発言しやすくなるように適切に尋ねたり、相手の問いかけに対して、丁寧に応じている

評価を総括してみよう！



児童の変容を見取ることが重要です。



本単元における「話すこと【やり取り】」における評価の総括

観点	知識・技能		単元における評価	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	第6時	(第7時)		第7時【本時】	単元における評価	第7時【本時】	単元における評価
評価場面	行動観察 ACT2	行動観察 ACT2	行動観察 ACT2	行動観察 ACT2			
評価の方法	誕生日や好きなもの、欲しいものを尋ねたり答えたりする技能を身に付けている。	誕生日や好きなもの、欲しいものを尋ねたり答えたりする技能を身に付けている。	自分のことをよく知ってもらったり、相手のことを知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合っている。	自分のことをよく知ってもらったり相手のことを知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合おうとしている。			
児童1	b	-	B	c	C	b	B
児童2	c	(b)	B	b	B	b	B
児童3	a	-	A	a	A	a	A

例えば、児童2の「知識・技能」については、本来の評価の場面は、前時（第6時）でした。本時（第7時）の「やり取り」においては、記録に残す評価の場面は設定していませんでした。しかし、「やり取り」を通して、「必要な技能を身に付けている」状況になったと、変容が見取れたので、本時の活動場面も加味し、「やり取り」の本単元における評価としています。

○「努力を要する」状況
↓
b「おおむね満足できる」状況
↓
本単元における評価は「B」

事後指導を行い、次時の学習へとつなげよう！

振り返りカードの活用

特に、児童1については、振り返りカードや口頭にて具体的な改善点を具体的に伝えることで、本単元を振り返るとともに、次の単元へ主体的に取り組める手立てを講じます。

複数形の s
不定冠詞の a など

「文法事項」と捉え、評価の対象とはしません。児童の誤りを教師が「正しい形で繰り返す」など、児童が「その違いに気付ける」ように指導を行います。ALTを活用することも有効です。

教師によるモデル
日頃からの活用

日頃から英語に触れることで、少しずつ定着します。

パフォーマンステストによる評価

学期に1回程度実施するとよい。活動中とは違い、「条件を一定にそろえて見取ることができる」というメリットがあります。

「書くこと」についての活動と他の技能との統合的な指導

例えば、以下の児童1～児童3のワークシートを見てください。指導する学年、単元、評価の観点によって、評価も異なってくると思いますが、重要なことは、それまでに「聞く」「話す」「読む」活動をとおして、「十分に慣れ親しんだ表現」を「書く」活動につなげること、簡単な表現や基本的な表現、伝えたい表現については、メモしたものなどについて「書き写す」活動とすることです。

例) 第6学年 We Can! 2 Unit 4 「I like my town.」 「書くこと」評価規準 国研 p.78～85

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に取り組む態度】
施設・建物を表す語句や We (don't) have ~. We can enjoy/see ~. I want ~. の表現、終止符の基本的な符号について理解している。自分たちが住む地域について、施設・建物を表す語句や We (don't) have ~. We can enjoy/see ~. I want ~. の表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを書く技能を身に付けている。	自分たちが住む地域について、相手に伝わるように、自分の考えや気持ちなどを書いている。	複数単元にまたがって評価を行うため、次の単元で記録に残す評価を行うこととする。

This is my town!
We don't have a library.
I want a library.
We have a big park.
It's good. I like jogging.
Sakura is nice.

児童1のワークシート

This is my town!
We don't have azoo.
I want azoo.
We have boach.
Nice!!
Sakura is nice.

児童2のワークシート

This is my town!
We don't have a zoo.
I want a zoo.
We have a park.
Sakura is nice.

児童3のワークシート

自分の住む地域について、
▲その良さや願い、自分の気持ちを表す表現を正しく書いていない。
▲語と語の適切な間隔など、相手によくわかってもらおうとしている観点から見ると、適切でない。
【知識・技能】C
【思考・判断・表現】C

自分の住む地域について、
◎その良さや願い、自分の考えや気持ちなどを表す語句や表現を、すべて正しく書いている。
◎相手に伝わるように、その良さや願いなど、自分の考えや気持ちを、学習した語や WORD LIST を調べて選んだり、文字と文字、語と語の感覚にスペースをおいて、適切に書いている。
【知識・技能】A 【思考・判断・表現】A

自分の住む地域について、
○その良さや願い、自分の考えや気持ちなどを表す語句や表現を、一部正しく書いていない。
○語と語の間隔を開けないで書くなど、相手によくわかってもらおうとしている観点からは、適切でない部分が見られる。
【知識・技能】B 【思考・判断・表現】B

下記の資料を参考に
にして、児童や地域の実態を踏まえた指導計画のもと、評価規準を設定することが大切だね。学校内でしっかり情報を共有しましょう！

※下記の参考資料に、その他の領域についての評価についての説明もあります。

参考 小学校学習指導要領解説 総則編・外国語編・外国語活動編 文部科学省
小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック 文部科学省
引用 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 国立教育政策研究所
埼玉県小学校教育課程指導・評価資料 埼玉県教育委員会から引用して作成

国研 p.○～○
県 p.●～●

「学びのR」
はこちらからも御覧いただけます！

